

平成 30 年度第 1 回総合教育会議

○開催日時 平成 30 年 6 月 25 日（月） 午前 10 時 30 分～午後 0 時 09 分

○開催場所 行方市役所 北浦庁舎 2 階 第 2 会議室

○出席委員

行方市長	鈴木 周也
教育長	正木 邦夫
教育長職務代理者	石崎 光春
委員	菅谷 千明
委員	邊田 益男
委員	宮内 淑人
委員	滝 惠美子

○事務局出席者

教育部長	濱野 治
学校教育課長	平山 寛児
生涯学習課長	木下 健
生涯学習課スポーツ推進室長	宮本 聡
学校教育課指導室指導室長	武田 民弥
学校教育課参事	内堀 美智子
学校教育課課長補佐	野原 文雄

○市長部局出席者

企画政策課長	久保田 博
こども福祉課長	八木 峰男
企画政策課係長	成寫 正蔵

1. 開 会

2. あいさつ

3. 付議案件

- (1) 公立幼稚園の今後の在り方について
- (2) 茨城国体の今後の取り組みについて
- (3) スクールバス一般混乗化に向けた取り組みについて
- (4) その他

4. その他

5. 閉 会

○議 事 録

1. 開 会

濱野部長から開会の宣言がありました。

2. あいさつ

鈴木市長からあいさつがありました。

正木教育長からあいさつがありました。

3. 付議案件

(教育長) 議事録署名委員に石崎委員を指名します。

(1) 公立幼稚園の今後の在り方について

発 言 者	発 言 内 容
正木教育長 平山課長	学校教育課長より説明をお願いします。 それでは、公立幼稚園の今後の在り方について説明する。 (公立幼稚園の今後の在り方について説明) アンケート調査結果からの保護者の意見については内堀参事から説明させていただきます。
内堀参事	それでは、アンケート調査結果からの保護者の意見について説明する。 (アンケート調査結果からの保護者の意見について説明)
正木教育長	参考資料2に、今後の公立幼稚園のあり方についての検討委員会を含めた、年度を越えた見通しについての計画を載せさせていただいた。資料に基づいて、1番では園児数の推移ということで、平成26年度、平成27年度あたりの就園率で見ていただくと分かるが、5割程度の就園率であったものが、30年度には3割を切るというところで、かなり急激に減ってきている。この背景には、子ども・子育て支援法による授業料の改定、また受け皿としてのこども園等ができ、幼児教育と保育の両方を兼ね備えたものができ、選択肢が広がったというようなことがある。それから2番として、各市の状況だが、朝の預かりの部分、また、何時まで預かれるかという時間を示した部分と降園後保育の最終の時間。そういったところで行方市と他を比較していただければと思う。ここで見ると、鹿行地区では平井の認定こども園が平成27年4月からこども園に変わっている。また、アンケート調査は大きく色分けしてある。茶色いところが、公立幼稚園を残すというような考え方。青のところが認定こども園にしていきたいという考え方。また、保護者の働き方改革のニーズに応じて、子供を預かる時間を増やすような、そういった施設を求める傾向が出ていると思う。そういったところで、これを基にして公立幼稚園の今後のあり方について、今後検討委員会に諮問する内容については、資料の表紙に掲げていることで、検討委員会でそのあり方について話をいただき、最終的に今年度中に答申をいただく、という流れで考えている。この件に関しましてご意見をお願いします。委員会にかけるので、ここであり方について検討というわけではないが、この資料について、また、このような形で諮問することについてお諮りしたいと思う。よろしくお願ひしたい。
邊田委員	資料を見せていただいた中で、幼稚園の保護者と小学生の保護者からアンケート

を取っているが、小学生だと、幼稚園に入れた子と私立に入れた子が混じっているのかと思う。そうすると資料のデータとしてはどうなのか。資料を読んでいて、データを見ると、幼稚園児数が減少しているのはよくわかる。これでどうしなければならぬか、という議論になるのは当然だ。また、他市の状況で、神栖市は3年保育をやっている。アンケート結果から、何人かわからないが、3年保育を希望している人が多いように感じる。そのように読み取れる。そうすると、3年保育はどうするかとか、そういったことも検討していかなければならない。

今回いただいた、アンケートの調査結果でいうと茶色はもちろん、青も市で作った方がいいという意見だと思う。先の取り方と関連して、幼稚園に入っている人が多いためこうなってしまうと思うが、かなりの部分、700数人のうち、重複もあるが600以上が、市で作ってくださいという意見になると思う。そうすると、いろいろこれからやっていくときに、これを説得していだけのものを作っていくと、この要望をどのように受け止めるのかということも非常に大きなところだと思う。もう一つ、行方市は午後6時までやっているということで、朝も午前7時30分から8時30分ということで、この時間帯の選択というのはよいと思う。私も孫がいるが、午前7時30分から8時30分までで、都合のいいところで預けられ、帰りも午後4時、最終で午後6時まで預かってくれる。私立には7時とか8時のところもあるが、公立でこれはよくやっているのではないと思う。ただ、実際に使っている人はどうなのか。資料を読んだ限りでは、使っている人から感謝されるような意見は出ていなかった。実態に合っていないのかもしれない。

市の幼稚園のあり方を考えるときに、数が少ないからどうするかというあり方もあるが、2年保育を3年保育にしたら入れますという声や、読んでいて驚いたが、子供が小さいうちは自分で育てたいという声もある。これは行方独特なのかなとも思う。そういった幅広い議論をしていきたい。

ただ、自分の家庭のことになってしまうが、息子の嫁はフルタイムで働いているので、保育園に預けざるを得ない。仕事があれば土曜日でも預かってもらえる保育園は非常に便利だと思う。女性が働くという視点から見たら、また違ったあり方がある。子供の視点、女性が働くという視点、市の財政という視点、そういったところから幼稚園を考えていかなければならないと思う。

資料を見ていると4歳児5歳児で30人くらいが1つの目安になると思うが、どのくらいの人数であれば、1つの幼稚園としてやっていけるかということを考えていく必要があると思う。もちろん文部科学省の基準はあると思うが、これは人数がたくさんいるという前提のもとで、1つを増やさないために上限を付けたものであり、逆に人数が少ないなら、下限はどのくらいかという発想もしていけないと、難しいと思う。家庭で育てることも大事だと思うが、孫を見ていると、この後を見ていないからわからないが、保育園に行っていた方が社会性は育つように感じる。

そこら辺のところをきめ細かく対応し、結果的には決めざるを得ないだろう。現状維持、減らす、増やす、色々な選択があると思う。市民のニーズをきめ細かく、汲み取っていただきたいと思う。

正木教育長

貴重なご意見ありがとうございました。

これからの検討委員会の中で検討していきたいと思う。

その他諮問に関するご意見はあるか。今後の検討委員会のあり方についても結

八木課長	<p>構である。こども福祉課長から何かないか。</p> <p>これまでの保育園，幼稚園，認定こども園の人数の推移について，資料にもあるが確認する。平成 26 年度の幼稚園の園児数は 240 人いたが，平成 29 年度には約半数の 119 人に減った。これは認定こども園の制度で，幼稚園の授業料は 0 円か 3,000 円だったものが，それを認定こども園の 0 円から 18,000 円と同じにしたことが理由の 1 つであるといえる。それまでは，共働きだと 0 歳から 3 歳児が保育園に預けており，4 歳になったら幼稚園に変えるということがあったが，施設を変えなければ，それだけ子供の負担も親の負担も少ないということで，認定こども園にずっと預けてきたのかと思う。そういうことで，幼稚園を利用する保護者の方が，少なくなってきたのかと思う。これは国の制度等があるため，それで今後どのようにしていくかは，会議で図る。今までの経過としてはそのような状況だ。</p>
正木教育長 鈴木市長	<p>ありがとうございました。その他諮問に関するご意見はあるか。</p> <p>各地区に 1 つずつ，3 つの幼稚園施設を置くというのは理想的であると思う。そのうえで 2 点意見を述べさせていただく。</p> <p>1 点目はアンケートの取り方の問題でもあるが，こども福祉課長が言ったところで，0 歳から 3 歳までのアンケートがどのように取れているのか。例えば，保育園，こども園に預けていた方，もしくは，保育園にも預けていなかった方からは，こども福祉課長が言っていた意見も出てくることが考えられる。距離的な問題，働き方の問題，という点もあると思う。これらの方々の意見がこの後どのように検討委員会に反映されていくのか，というところがあると思う。</p> <p>もう 1 つが，行政コストの計算だ。3 歳児保育が悪いことだとは思わないが，行政コストとして，どれくらい今後必要で，幼稚園の授業料に対して，コストがどれくらいのパフォーマンスか。また，建物や維持費等の行政コストとそのバランスシートはどのようになるか。各保育園・こども園はたぶんそれをバランスシートとして作っているはずだ。今年の子園児をどのように計画的に入園をして，その数を越えない，あるいは中で収めるという経営をしているはずである。幼稚園単独でこれを一般財団法人，一般社団法人にして，行方市立各こども園にしたときに，形態として成り立つか，というイメージをつけなければならない。保護者からすれば公立という名前があればいいとは思いますが，その時に，対授業料としてどう跳ね返ってしまうのかというイメージはないと思う。行政側とすれば，税金を使っている以上，施設を使っていない人の税金まで使っているということになる。その部分がどういう風にこの検討委員会の中で触れられるか。数と物と箱というところであれば，論理的に行くところのままが一番理想なのは間違いである。ただ，授業料はどうするか，条例化のため条例としてはどうするか。施設を使っていない人の税金まで使っているという部分をどうするのか，ということがある。小学校に上がると，9 割以上が市立の小中学校に行っている。市の財政そのまま使っていくとなった時に，その部分の差はどういう風にやるか，ということをお先ほどの中に入れていただくと，非常に助かる。</p> <p>先ほどの市外の情報を見ると行方市は一生懸命頑張っているなと感じる。素晴らしいと思う。保護者には当たり前と思われてしまっているかもしれないが，他の市と比べると，一生懸命やっていると思う。</p> <p>貴重なご意見ありがとうございました。</p>
正木教育長	

鈴木市長	<p>市長からご意見いただいた中で、現有の施設でどの程度受け入れ可能かというような、特に3歳児の受け入れは可能かという施設面の資料も検討委員会の方に資料としてつけていただければありがたいと思う。よろしく願います。</p> <p>では、公立幼稚園の今後のあり方に関する検討委員会に付する資料については、このような形で諮問していく。</p> <p>1つお願いがある。検討委員会の経過で結構なので、この総合教育会議の場で流れだけでも報告をいただくとありがたい。</p>
正木教育長	<p>承知した。当然、次の段階にもつながっていくため、経過を含めて報告させていただく。委員会は第1回会議を7月13日に開催する予定だ。委員については先に定例会でお諮りし、10名委嘱する予定なのでよろしく願います。</p>

(2) 茨城国体の今後の取り組みについて

発言者	発言内容
正木教育長 宮本室長	<p>スポーツ推進室長より説明をお願いする。</p> <p>それでは、茨城国体の今後の取り組みについて説明する。</p> <p>(茨城国体の今後の取り組みについて説明)</p>
正木教育長	<p>何か質疑はあるか。</p> <p>では、私から、啓発イベントによる広報とある中で、74年の茨城国体で使用したトーチについてだが、これは体育館で展示するよりは各庁舎で展示した方が多くの目に触れて良いのではないか。ケースに入れて展示するか、あるいは紐をつけて直接持てるようにするなどして展示したほうが、インパクトは強いのではないかと思う。</p>
宮本室長 正木教育長	<p>3庁舎へも展示するようにする。</p> <p>市民の意識を高めていくためには、たくさんの人の目に触れる場所の方がいいかと思う。</p>
宮本室長	<p>また、同じ項目で、ゲートボールで婚活とはどのようなイベントか。</p> <p>まだ、企画政策課と電話でしか相談をしていないが、実施したいと願っている。年齢層をなるべく若い人に設定して、若い人にもゲートボールをやっていたら、ということでは計画である。</p>
菅谷委員	<p>防災保安・救急救命体制というのが、検討されるのかと思う。そういう項目も入れておくことも大事かと思う。いろんな方がいると思う。心臓停止などの緊急時に、迅速な対応とケースバイケースで迷いなくプロセスを運べるようにできることがいいかと思う。そういったことも検討項目として挙げておくこともよいと思う。</p>
木下課長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。スケジュール表の8番、医療衛生の方にもあるように、今のご意見も参考にしながら、進めていきたいと思う。</p>
正木教育長	<p>その他何か質疑はあるか。</p>
鈴木市長	<p>広報及び協賛グッズの作成とある中の、広報についてだが、なめがたエリアテレビとの関連はどうなっているか。</p>
宮本室長	<p>鹿行5市の国体PR動画をなめがたエリアテレビに放映していただくようお願いをしている。今のところ7月くらいから放映できるのではないかと、なめがたエリアテレビからお答えをいただいている。</p>

鈴木市長	<p>2点目に、ゲートボールの方で、高校生のエントリーが他の県ではあるが、このゲートボールのエントリー方法を教えてほしい。</p>
宮本室長	<p>国体のエントリー方法だが、茨城県開催ということで、茨城県から2チーム選抜で出てくる。行方市に優秀な方がいれば、その選抜の方に入っていただき、そちらからの出場も可能である。通常だと関東6県から1チーム、東京から1チームしか出られないが、開催県ということで、茨城県から男女1チームずつ出られるということになっている。</p>
鈴木市長	<p>後の検討材料で構わないが、玉造工業高校対麻生高校の高校生のエキシビジョンマッチをやってほしい。できないならできないで構わないが、競技普及の1つとして、やったことが無い人が、どこまでできるのかを見てみたい。</p> <p>前回の愛媛県大会でも高校生が岩手県から出ている。意外とそこの隙間があり、高校生が出ているということを知らない。気運醸成のためにそれも少し考えていただきたい。不可能であれば不可能で結構である。</p> <p>また、ボランティアの募集だが、今集めているということだが、どれくらい、どのような仕事をしていただくのか。市の職員も動かさなければならぬと私は思っている。どのようなボランティアを計画しているのか、雑駁で結構なのでお願いします。</p>
宮本室長	<p>ボランティアについてだが、日本ゲートボール協会で大大会運営等をやっていたことになる。また、茨城県ゲートボール協会からも、審判員を80名程度出していただけるということで、行方市のゲートボールのボランティアとしては、ペットボトルの水を配付と、交通整備、今のところはそのくらいだ。また、ハンドボールでも各ハンドボール部の方からボランティアが上がってきており、今のところボランティアはいらなくてもいいような状況である。</p>
鈴木市長	<p>その協会がある程度まかなうとなると、国体が他人事で終わってしまう。茨城新聞に、こういう国体が出てきて40年前はこういう風に経験した、というコメントが多く載っていた。競技会だけを行うのならば、国体と関わったという感覚の人がゼロに等しくなってしまうと私は思う。今、県で考えていることなので、ここでどうこういえないが、多少なりとも関わる人についての、スペースは広げていただき、こういうことをやってきたということを記憶にとどめていただきたい。もしくは子供たちにも、記憶にとどめていただきたい。この後様々なスポーツ大会があると思うが、大きい大会なのでこういう経験は非常に大きいと思う。せめて、予算的なことになってしまうが、市のポロシャツに国体のマークを一緒に入れさせていただくなど検討してほしい。ちなみに潮来市は、この前議会が終わったが、あそこは公式競技が入っているので人手が足りないくらいの勢いで、PRするというので、議会と市の執行部にポロシャツをということで議会の最終日を迎えた。まあ、そのように市民の国体に向けての気運醸成を図っていただければ、そういったボランティアで働いていただけると、かなり違うのではないかと思う。ボランティアを募集というのも、多めにいろんな大会でも一緒に出してほしいと思う。</p>
宮本室長	<p>企業協賛はどうなっているか。</p> <p>残念ながらまだ協賛を得られていない。今後うちの方で企業を回っていきたいと思う。</p>

鈴木市長	現状0件なのは分かったが、何件歩いて0だったのかというベーシックなところがわからない。何件で0だったのか。
宮本室長	まだ、企業の方には回っていない。市報等でしか募集はしていない。
鈴木市長	募集では来ないと思う。何社くらい回る予定か。
宮本室長	チャレンジデーで大きな企業を、回ったが、それと同じ企業を回っていきたいと思う。
鈴木市長	どれくらいの数があればいいのか。企業協賛は何社あればいいのか。
宮本室長	まだそこまでは考えていない。
鈴木市長	1社でいいのであれば、1社になるだろう。今後、例えばお水が必要であればお水を提供していただくケースもあるだろうし、お弁当が必要だったら、お弁当を提供してくれるところで募集をかけていくことが当然だ。バスを使うのならば、バスの方々に協力してもらうのもわかる。基本的にそういうところが企業の協賛だと私は思う。全国から届くわけだから、それがあって初めてだと私は思う。よほどその競技に対して思い入れがあって、協賛いただける方であれば、それは一番いい事だが、まったく関係ないところに行ったら効果は薄い。そういうところはどうか。例えば、市内だけに限らず、市外もしくは全国的な規模の会社で動いていただけるかなという企業はあるのか。
木下課長	市外や全国はやっていない。今、宮本室長からあったように、チャレンジデーでご協力いただいた企業に、国体のPRのポスター等を持って行って、PRと同時に協賛していただけるかということをお礼がてら回っていく予定である。どんなものを協賛していただけるかということで、水や団扇など、さまざまなものから何か協賛できるものを提供していただき、その会社の名前を入れる等できればと思う。今どこを回るかを検討中である。
正木教育長	色々これからの課題もあるかと思う。1年後なので、実行委員会等々で今できることを、精査しながら、国体に向けて頑張っていて取り組んでいただきたいと思う。よろしく願います。それでは茨城国体の取り組みについて、ご報告していただいた。貴重なご意見ありがとうございました。

(3) スクールバス一般混乗化に向けた取り組みについて

発言者	発言内容
正木教育長	企画政策課長より説明をお願いします。
久保田課長	それでは、スクールバス一般混乗化に向けた取り組みについて説明する。 (スクールバス一般混乗化に向けた取り組みについて説明)
正木教育長	何か質疑はあるか。
邊田委員	高校生に関係したところで、今、多くの高校が業者のスクールバスを使っている。高校生がそこから移るかどうかは、帰る時間、朝の時間と合うかという時間帯と、お金、それから混乗化した時に乗れるかどうかだと思う。これらがうまく行けば、私はいいと思う。私は学校でスクールバスを使うのは、あまりよくないと個人的には思っている。自分できちっと通うべきだと思う。ただ、今のように学生が少なくなると、どうしても囲い込みたくなる傾向があると思う。 また、学校の行き着く先がどうなるか。つまり、玉造工業高校、麻生高校、

久保田課長	<p>銚田第一高校，銚田第二高校，潮来高校，どこまで行くのかというところをどういう風にやっていくのか。</p> <p>ちなみに，小中学校のスクールバスの契約で朝晩以外にもバスを使えるのか。朝晩以外に使うときには，お金を別にまた払うのか。</p>
邊田委員	<p>ただいまの，スクールバスを間合い運行などの，時間帯によって利用する分の経費だが，現在は麻生小学校のスクールバスを利用して間合い運行をしているが，当然ながらこちらで別な経費が掛かるようになってしまう。その便数や場所によっても，ある程度経費を予算化しなければならない。</p>
成寫係長	<p>実現の可能性という，混乗化をどこまで進められるのかということだろうと思う。ただ，高校の側にすると嫌うと思う。5台出しているスクールバスが3台になれば，他に跳ね上がる可能性がある。5台で均等を保っている，そういうところがあるのかと思う。それを崩せば一番いいのかもしれない。</p> <p>後，私ももう少ししたら，車が乗れなくなる。その時，どこへ行きたいか考えると，買い物だと思ふ。買い物だと考えたら，ベイシア，セイミヤ，後は銚田や潮来のラルルーなど。そういうところまで行くとなると，例えば極端に言えば，間合いバスを買い物バスのように運行した方がよいかも。行って，2時間程度そこで止めておいて，また送るようにしたほうが，高齢者から考えたら便利だと思ふ。</p> <p>市で混乗化をすすめて，一般の人と高校生を入れるには，時間帯や間合いなどの計画を利用者の視点でやらないと，難しいと思ふ。確認だが，この事業は，混乗化等によって少しでも利用料等の収入を得ようという事業か。</p>
邊田委員	<p>スクールバスの空き座席活用だが，空き座席は今後どんどん増えていくという予想が立っている。現在664座席空いている状況で，単純な数字的な比較となるが，バス1台定座席35人乗りで計算すると，正座席であっても約11台，補助席を込で計算すると，約19台バスが減らせる。座席がそれだけ空いている。これを，単純にバスを小さくするだけで済ませられるかというところも言えない。バスを小さくして限界まで安くしても，人件費は同じ時間かかるため，極端には安くならない。ならば，台数を減らすのではなく，それを一般の方が利用できる環境を作っていく。また，下校便に関して，一斉下校で全体的に必要なときと，上級生，下級生という形で2つに分かれて帰るときには，バスの台数がそこまで必要ないのではないかと。いうところを全体的に調整し，経費をそこで圧縮して夕方の便を走らせる取り組みができないかというのが混乗化の事業となっている。</p> <p>先ほど高校生の取り込みに関してお話があったと思うが，市内に2つ高校があり，麻生高校利用者，特に玉造・北浦方面から麻生高校に通っている子供たちが，減ってきてしまっている。スクールバスそのものの維持費が，他の黒字路線からそこに再配分しているような状況で，そこであれば市営バスを整備することによって，事業者の方も黒字路線を維持していけるという状況もあるのかもしれない。今，事業者の方と打ち合わせを進めているところだ。</p>
成寫係長	<p>麻生高校へ話には行って見たのか。</p> <p>行方市の地域公共交通協議会というものがあり，そこに玉造工業高校の校長先生，麻生高校の校長先生に入らせていただいている。市営バスを計画していく</p>

	<p>ときに、将来的にはスクールバスの問題をそこで解決していければということで、今まで進めてきたという経過がある。</p>
<p>邊田委員</p>	<p>結局麻生高校だったらメリットあるかもしれない。確かに、スクールバスは利用生徒数が少なくなれば、単価があがってしまう。学校は何も損はしないが、受益者負担が増えるから乗らないとなったりもする。</p>
	<p>私の考えで言えば、混乗と高校生の取り込みについて、特に麻生なら麻生高校を取り込んで麻生高校だけに特定にしてしまえば、いくつもの高校が入るよりは帰りの便は決めやすいと思う。そこから取り掛かって増やしていけばよいと思う。</p>
<p>正木教育長</p>	<p>市内にバスが1台も通っていないというのはさみしいと感じる。</p> <p>貴重なご意見いただきましてありがとうございます。私の方から、先ほど説明があった課題問題点の方で、平成29年に麻生小学校の保護者を対象に説明会を開いたとある。ここで、安全や不安視を含めて厳しい意見があり、反対だという意見があったとのことだが、この説明会は全体としてはどうだったのか。</p>
<p>成畷係長</p>	<p>説明会では、Q&Aと保護者の方々にお礼と一緒に市の考え方の方を出させていただいた。同じような質問もあったが、全部で約25の質問があり、細かいところから極論まであった。例えば、子供が殺されるような事件が起きた場合にはどう責任をとってくれるのかなど、どうしても答えがそこで即答できないような質問が多く、そもそも混乗化や公共交通を整備してもまず乗らないのではないか、というような意見もいただいた。後は学校としてどう考えているのか、何かあってから考えるのではなく、最初から問題があるのは分かっているのだからやらないでくれ、というような意見もあった。不安な部分というのはあって当然だと思うが、いくらバスの中だけ安全確保しても、歩いて登下校する子供たちが必ずいる中で、地域の安全の方を大事にしていけないといけないと思う。それを地域ごとに、それぞれどのように見守っていくかというところを考えていけるように、スクールバスの混乗化については地域づくりの一環として進めていった方が、行方市全体として考えた時にはよいのではないかとということをお答えした。</p>
<p>正木教育長</p>	<p>ありがとうございました。私も麻生小学校の教頭で、平成12年から平成14年まで3年間いたが、その時は新原方面の子供たちが関鉄のバスで登下校していた。そのあとバス路線が廃止されて、スクールバス導入ということになったと思うが、最初から子供たちの安全が確保できないという以前に、ここに出ているような地域の方とふれあい等のメリットが多いと思う。そこで、今までの例を挙げながら、ご理解をいただけるように持って行ったらよいと思う。個人的な意見では、私は混乗化に賛成だ。</p>
<p>鈴木市長</p>	<p>混乗化について、大変だということだが、逆に、路線不定期ではなく貸し切りのスクールバスにした場合、経費が何倍くらいかかるのかというデータがあると分かりやすいと思う。</p>
<p>成畷係長</p>	<p>貸し切りバスは、法律で上限下限というものが設定され、貸し切りでやった場合、今の経費の倍以上かかる計算になると思う。今、高校のスクールバスは特定輸送といい、子供に限定して許可を得ている。小学校中学校のスクールバスは路線不定期運行といい、一般の乗合の形をとっている。経費については、</p>

鈴木市長	<p>国の縛りがあるのが貸し切りのみで、それ以外については特に縛りはない。そのため、事業者さんの見積りの金額となると思う。</p> <p>なぜこれを聞いたかという、この路線不定期運行をやっているのは行方市くらいである。茨城町はこれを貸し切りバスにしたが、関越自動車道のバス事故を受けて、国土交通省が金額に上限下限の縛りをかけた。これで経費が3倍に上がったという経過がある。そうすると行方市では約3億の市の負担が、約9億になるということになる。それでスクールバスはずっとやれるのかとなると、その負担が利用料にも集中してしまう。そういうことを考えてやっていかなければならない。行方市は、やり方がうまく行ったので今の値段設定ができています。そういうメリットがある。このようなことを踏まえて混乗化をしていくとなると、確かに、保護者も混乗化をしていくべきだと思えるようになると思う。</p> <p>また、意識づけの1つとして、バスに乗る場所、つまり、子供の指定席を決めていただきたい。これで、空いている席がどれだけあるのかということが把握できる。そうすることによって、この空きを保護者が見た時に、この空きをどうしようかと、このバスの規模はどうなのかと、考えていただきたい。そうならば、ものすごく市はありがたいし、子供たちの動向がある程度はつきりするので、そこで問題対処ができるのではないかと考えている。これがもし可能であればしていただきたい。</p>
正木教育長	<p>ここでまとめるのは難しいが、いずれにせよ、財政的な面、また、安全の面を確保しての混乗化というのは、避けられない部分かと思う。今週は水曜日に地方公共交通会議もあるので、そういったところで本日出たご意見等も反映しながら、ご検討いただきたい。よろしく願います。</p>

(4) その他

特になし

4. その他

特になし

5. 閉会

濱野部長から開会の宣言がなされました。